



スモールステップ



11月号

つちやの
ちょっと聞いても
いいですか？

今月のインタビュー企画は、2本立てでお送りします。

はじめに、いよいよ来月に迫った本校の一大イベント、しながわ学習発表会について、運営のまとめ役である平良俊教諭にいろいろ話を伺いました。続いてのインタビューは、本校のスクールバス事情について、本校ならではの特徴や課題などを副校長先生からお聞きしました。

しながわ学習発表会のねらい

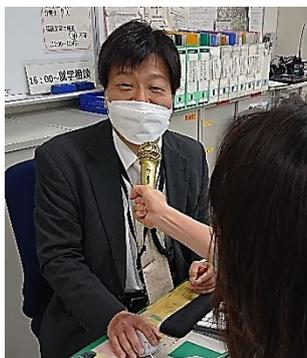
土屋：いよいよ子供も大人も楽しみな、しながわ学習発表会が近付いてきました。

しながわ学習発表会の「ねらい」は何でしょうか？

平良：日頃の学習成果を発表し、発表会で得た自信や達成感を今後の学習につなげていくこと、そして全校の児童・生徒が協力して主体的に活動することにより、さらに本校の一体感を醸成させることです。

土屋：楽しいイベント要素だけではなく、児童・生徒の全人的な育成に非常に影響のある活動ということですね。各学年の発表内容の工夫があれば教えてください。

平良：やはり1番に考えられているのは、日頃の学習で「できるようになったこと」をいかに効果的に演出できるか、があると思います。そして、舞台でも子供たちがのびのびと力を発揮できる内容・環境作りも工夫されています。各学年の演出責任者(シナリオ・全体構成などの担当)の好みスパイスとして入っていることも学年の個性が出て楽しめるのではないのでしょうか。



本校のスクールバス事情

土屋：先生は教職経験が長いので、いろいろな学校を見てこられたと思います。

本校のスクールバス事情は、他校と比べてどのような特色がありますか？

小滝：まず1番の特色は、15台全てが小型であるということです。小型である理由は、校舎の建築構造(職員室の出っ張りにより大型バスが通れない)によるものですが、これが本校の様々なスクールバス事情の特徴を決定付けています。

土屋：なるほど。では、小型バスであることの課題は何でしょうか？

小滝：必然的に台数が多くなるということです。15台というのは、都内で2番目に多い台数です。台数が多いことにより、バスコースのコース取りや人数調整、バス会社との連絡などが複雑になってきます。また、小型であるがために、バスの乗車率は他校と比べると高くなっており、それは児童・生徒の座席の距離が近くなるということを意味しています。つまり乗車率の高さは、児童・生徒間のトラブルリスクの高さにもつながります。もちろん、課題解決については、管理職・担当部署・担任・バス関係者が日々コミュニケーションを取り、対策に努めています。

土屋：物・空間・数などの物理的課題は厳しいものがありますね。では、小型バスであることのメリットは何かありますか？

小滝：小回りが利くので、幹線道路でない住宅道路も通ることができるという点です。コミュニティバスのように、比較的家の近くまで行くことができます。また、バスコースが多いことも、個々の家の近くまで行くことを可能としており、車内で過ごす時間は、他校と比べると短いと思います。

本校のスクールバス事情を少しでも知ってもらうことで、家庭と学校が理解し合い、安心・安全なスクールバス通学を実現していきたいと考えます。

文責：土屋 美奈

